

BELCA賞 ロングライフ・ビルディング部門 表彰

建物名称 服部時計店
 所在地 東京都中央区銀座
 建物用途 店舗・事務所
 竣工 1932年6月3日
 所有者 株式会社 服部セイコー
 設計者 渡辺 仁
 施工者 清水建設株式会社
 維持管理者 株式会社 服部セイコー
 株式会社 和光



審査評

服部時計店は、大恐慌の昭和7年に設計に着手され、翌年着工、2年後に竣工している。そのような時代にもかかわらず、東京の1等地に、精選された一流商品ばかりを売る店舗として、施主の建築に対する質的要求は高く、それに応じた設計及び施工の技術は見事で、デザイン、構造・設備技術、材料の選択、施工技術の各面に創意・工夫を凝らし、建物の用途に合致した、時代を象徴する建築として完成された。ネオルネッサンス様式の外観は、うすい赤味を帯びた万成石とブロンズによる唐草模様が柔さと簡潔性を帯びて、ほどよい装飾性を表現し、1階の角を回る大きなショーウィンドーは今なお新鮮さを失っていない。

外装は、耐久性が高く、戦災時にも焼損を免れ、有楽町側の壁面が向いの火災で部分的に傷んだ以外は創建当時の姿をとどめている。内部は建設当時、地下1階、地上1階及び、2階が小売場で、この内装はイタリア産大理石が当初のまま残っており、現在も商品と合った質の高い空間となっている。3、4、5階は卸部門や事務室であったが現在は売場に改装されているが、6階の役員室、客室は当時のままにチーク材による内装が保存されている。

当初の売り場には、アドソール装置による換気設備を備え、特に中央の4本の柱の中に仕込まれた排気ダクトは今日も冷暖房のリターンダクトに活かされ、外観の維持に役立っている。

工事の際、土工事の根伐底から更に1階分のシートパイルを打ちおくことを、地下鉄工事を予測した施主が指示しているが、これは、地盤を安定させ、耐震設計と共に建物のロングライフに寄与している。このような施主の建築に対する質の高い配慮は評価される。また、この建物は、戦時中に内外装に用いられたブロンズの供出や、戦後、アメリカ軍の接收、一部韓国大使館の使用等を体験してきたが、ブロンズの復元や改装による整備、設備の改修等を重ね、現在は和光の店舗として、建築の質の高さを回復している。

屋上に立つ時計塔は、世界に類のないものをとの要求に設計者が努力を重ねてデザインし、ネオルネッサンス様式のファサードと融合させたものである。現在は機械がクウォーツに更新されて、正確な時を刻み、建築の象徴性を強めている。

60年が経った今日、オーナーとテナントの建築に対する誇りと共に看板を1枚も付けないこの建築は品格と存在感を漂わせて、銀座の象徴として、人々に親しまれている。